

研究開発 評価結果概要一覧

○事前評価

番号	課題名	研究主体	研究期間	総事業費	課題概要	研究目標	評価概要	評価結果
1	新食料供給基地建設のための先端技術展開事業	民間団体等	24年度～29年度	60億円	東日本大震災の被災地を早期に復興し、新たな食料供給基地として再生するため、農林水産食品産業分野や他産業分野の先端的な技術シーズを組合せ最適化し、現地への普及を図るとともに全国に発信する。	被災地における先端技術の活用により、29年度までに、当該地域における生産コストの5割削減(収益率の2倍化)を目指す。	東日本大震災からの復興に向けて、本研究課題は重要であり、早急に実施すべき内容であるが、復興地域に合わせた将来の営農モデルを明確にし、出口を見据えて、先端技術だけでなく、既存の研究成果も活用し、早急に実施することを期待する。	事業着手の要件を満たしている。
2	全ゲノム情報を活用した家畜の革新的な育種・繁殖・疾病予防技術の開発	民間団体等	24年度～28年度	18億円	家畜生産の低コスト化、効率化を図り、収益性の高い畜産経営を構築するため、近年進展が著しい家畜の全ゲノム情報や研究基盤を活用して、優良な形質を持つ家畜を、効率よく増やし、健康に育てるための技術を開発する。	家畜の生産性向上(遺伝的改良の促進及び繁殖サイクルの短縮に伴う生涯生産頭数増加)、管理技術の省力化、衛生対策費の削減を目指すともに、実用的な新規ワクチン等の開発による動物医薬市場の開拓を目指す。	我が国の畜産業発展に貢献するため、本研究課題は重要であり、国際競争が激化する中で、集中的かつ速やかに実施するとともに、研究成果の迅速な普及に向けて、民間との連携を強化することを期待する。	事業着手の要件を満たしている。
3	天然資源に依存しない持続的な養殖生産技術の開発	民間団体等	24年度～28年度	18億円	①人工種苗により養殖生産に用いられている天然種苗を代替し、ブリ類、ウナギ、クロマグロの安定供給に貢献する。②低コストで安定的に人工種苗を生産する技術、採卵可能期間を延長する技術を開発する。	天然稚魚に依存している養殖魚(ブリ類、ウナギ、クロマグロ)について、32年までに人工種苗を活用した本格的な商業生産を開始することを目指す。	天然資源の枯渇が懸念される状況において、本研究課題は重要であり、国民が待望する喫緊の課題である。今後は、基礎技術の確立から大量飼育を前提とした実用化に向けたロードマップを更に明確にした上で、研究を実施することを期待する。	事業着手の要件を満たしている。
4	農山漁村復興に向けたバイオ燃料等生産基地創造のための技術開発	民間団体等	24年度～27年度	24～30億円	東日本大震災の被災地等で得られるバイオマスを原料に、被災地の産業、生活に必要なバイオ燃料等として低コストで地域に周年安定供給する技術等を開発し、地域の復興や新事業の創出につなげる。	東日本大震災の被災地を中心とする農山漁村において、32年までに、500億円/年以上の新産業の創出を目指す。	原子力発電に代替するエネルギー開発に国民の注目が集まっており、本研究課題は重要であるが、被災地において、どのような新産業を創出するのか明確にしつつ、産業界とも連携して実施することが必要である。また、研究目標の達成に向けて、常に生産施設の規模やコストを検証していくことが必要である。	事業着手の要件を満たしている。